期待に違わぬ性能と新技術

DAIHATSU MOVE

■テキスト＝青柳 健司（フォトライター）　■Photo＝川村 勲（川村写真事務所）　■取材協力＝ダイハツ北海道販売 白石店　(011) 864-2721

プロフィール

進化を実感するデザイン

各メーカーが開発にしのぎを削るホットなカテゴリーとなり、近年ますます活況をていしている軽トールワゴン界において、常に業界をリードしているダイハツムーヴ改めムーヴカスタム。今回これまでにない新技術を携えて登場。メーカーは今回の新型ムーブの売りどころとして“強力な走行性能”と“優れた燃費”、“上質な乗り心地”を挙げているが、それらを実現するために、ムーヴのアイデンティティーでもある“広い室内空間”を犠牲にしてはいけないという、非常に難しいテーマに挑んだ開発陣の苦労がうかがえる。

プラットフォームが変更されたことで、フロントフェイスをより“やんちゃ”な印象にしたり、ボンネットに穴を開けたりとデザインのフロントライトを配した先代は、実は賛否両論の的でもあった。ダイハツは、既存ユーザーなどから得たアンケートを検討した結果、先代ムーヴカスタムの特徴であった角形フロントライトを支持する声が多数寄せられていたことに着目。そのイメージを踏襲しながらも、軽ハイゼン車初のLEDランプを備えるムーブ系はハロゲンライトを採用など、単なる回帰にとどまることなく現代的なマスクで襲うことに成功しているが、それゆえ、大きく変わったと感じるユーザーも多いのではないだろうか。

革新のサポートシステム

フロントから鋭角的なサイドプレスラインへと流れ、リアはトランクから重厚方向にストンとおさまるようどの角度から見ても直線にメリハリが感じられ、トータルバランスが高い次元で保たれている。したがってルックスへのユーザー満足度は極めて高そうだ。

これと同時に走行フィーリングがあらためられたことは、様々な観点から実感できる。例えば、ライトウエイトカテゴリーにおいての開閉音が全般的に響くの特に閉めた際の開閉音が全般的に響くの特に閉めた際の開閉音が全般的に響くの特に閉めた際の

ディーラーメッセージ

ダイハツ北海道販売 白石店

カーライフアドバイザー **永田 祐介**さん

静粛性・安定感など、全ての基本性能が先代ムーヴから向上しています。その違いをぜひ、見て触れて、実感していただきたいですね。今回新しく取り入れたスマートアシストを含めて、軽で初めて採用した技術や装備も多数ありますので、お客様もその点におおいに興味を持っていただいております。ただ、サポートシステムは飽くまで万一の場合への備えですので、車そのものの良さをもっとしっかりとお伝えしていきたいと考えております。

インプレッション

■悪路こそ能力を発揮?!

今回試乗用に提供されたのは、わずか11kmを走行しただけの、ムーヴカスタムX"SA"(スマートアシスト搭載車)の4WDバージョン(147万1000円)。ディーラーオプションとして、ナビゲーションシステムを搭載(プラス12万6000円)したものである。

まずは、シンプルで飽きのこないデザインのドライバーズシートに着座すると、全方位の確認が容易なことにあらためて感心する。

スイッチ一発でエンジンに点火しアクセルを軽く踏み込むと、ひたすらスムーズに発進。混雑した幹線道路への侵入行動も極めて容易に行え、ドライバーの意図に忠実なストップ&ゴーを繰り返してくれる。加速時となると、5000回転を超えたあたりから景色が一変し、なかなかの悦楽が味わえた。静粛性については、旧モデルから確実に向上しており、3000回転あたりのエンジンが最も唸りを上げる場面でも、騒音が神経に触るようなことはなかった。また、ボディ剛性を高めた効果から、風切り音が気になるような場面も少なく、高速道路を長時間走行しなければならないようなケースでも、ドライバーの精神的負担を軽減してくれそうだ。

最小回転半径は4・4mを誇るだけに、車庫入れや駐車場での取り回しも実にイージーである。ハンドリングに関しては若干の不安定感を伝えた先代のフィーリングを打ち消すかのようにカッチリと硬質な仕上がりとなっている。高速コーナーにおいても路面を確実に捕捉でき、その効果は絶大であった。前輪にマクファーソン・ストラット式コイルスプリング、後輪に3リンク式コイルスプリング(2WDはトーションビーム式)を備えたサスペンションは、4WD効果と相まって悪路や雪道でも不安を感じさせない走りを約束してくれる。取材時の天候は大雪で、道路にもタイヤが1／3ほど埋もれるほどの積雪があったが、カーブ出入り口でのフラつきなどはほとんど感じないほど挙動が安定していたことも特筆に値する。そのあたりにも、新型ムーヴの成熟度がうかがえた。

スマートアシストの効果に関しては天候や取材時間等の理由で、今回は十分に検証することはできなかったが、実際に稼働していることは表示灯や時折聞こえるブザーで認識できた。もし、システムが不要と感じるならば、スイッチを長押しすることで簡単に解除することが可能だが、使用しないメリットは全くないと断言できる。

■クラスを牽引する実力

ムーヴには近年、燃費向上とドライビングサポートシステムの熟成もしくは開発という大きな期待がかかっている。その重責を真正面から受け止めたうえで、ひとつの答えとして結実させたのが、新型ムーヴの立ち位置と言えよう。年々、上位車種から軽自動車に乗り換える層が増えていると聞くが、それらのユーザーの肥えた目を納得させる魅力があり、なおかつ女性や高齢ドライバーに優しい設計。しかも、経済的負担の少ない実用車であり、さらに言えば他車の追従を許さないポテンシャルを備えたもの。新型ムーヴの総合ポイントは、極めて高いと言える。